

不満から読み取る児童書の現状と課題

○鈴木 もも・朝日弓未(東京理科大学)

研究背景

児童書の読み聞かせや読書活動は、子どもの識字力や思考力、情動理解を育むことが示されている。

現代の子どもは集中力の低下や他者とのコミュニケーションを苦手とする傾向が見られ、子育て面では、核家族化による親のストレスや負担の増加も問題となっている。

研究目的

児童書に関する不満を分析し、改善点を明らかにすることで、児童書を通じて子どもの成長と親のストレス軽減を支援することを目指す。

使用データ

提供元：株式会社 Insight Tech

期間：2015年3月～2017年3月

- ① 不満投稿データ (csv)
 - ② 不満を投稿したユーザーの属性データ (csv)
- 上記の中から「児童書」に関するデータを抽出

分析手法

使用ツール：Text Mining Studio (NTTデータ数理システム)
特徴語の抽出やことばネットワーク分析を行った。

分析結果・考察

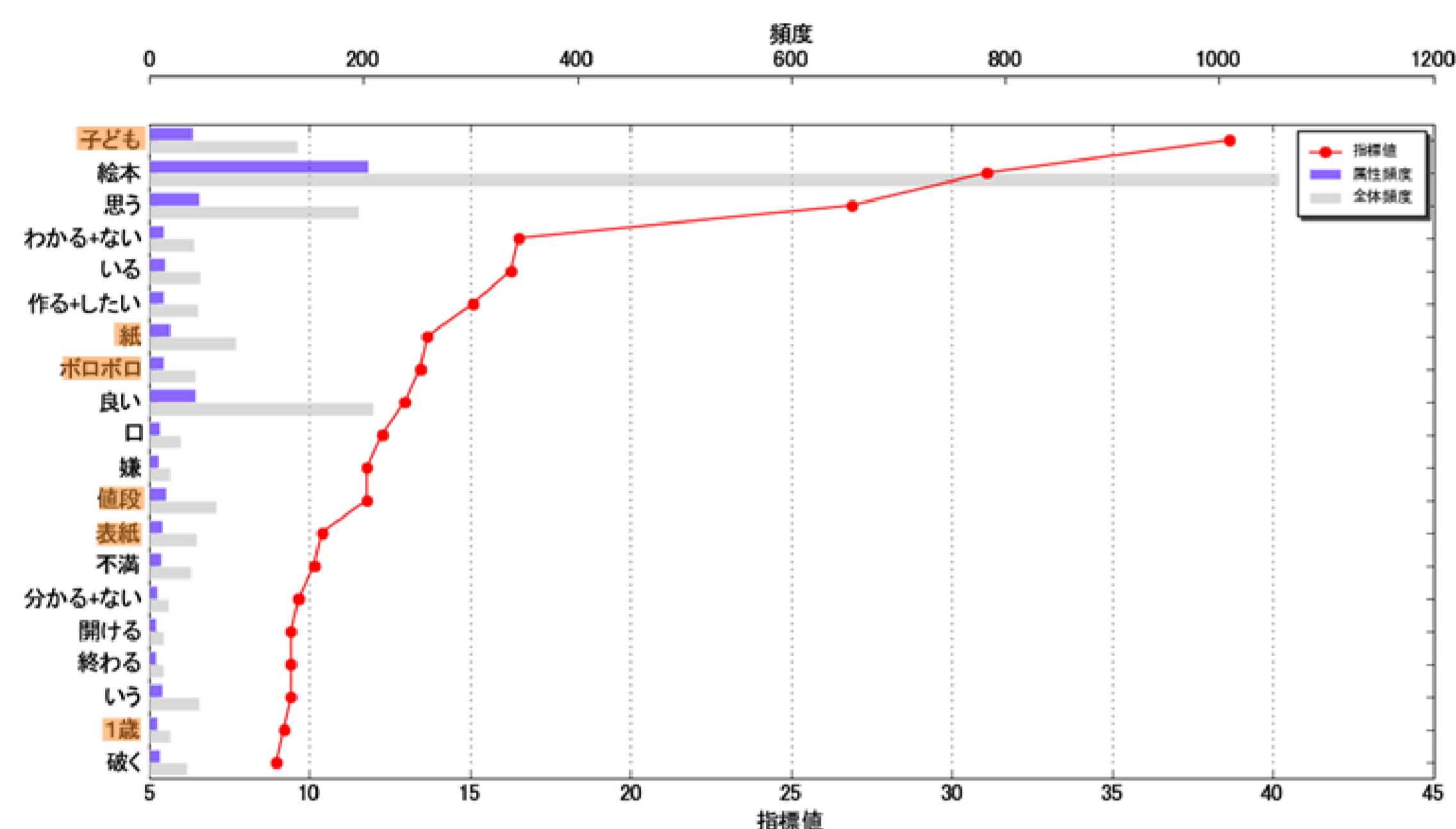


図1.20代の特徴語抽出の結果

- ・「紙」「表紙」「ポロポロ」といった語から、**紙質**への関心が高い
- ・「値段」という語から、**価格**に対する不満が見られる
- ・「1歳」といった語から、**幼児向け**の児童書に関する不満や**要望**が含まれる

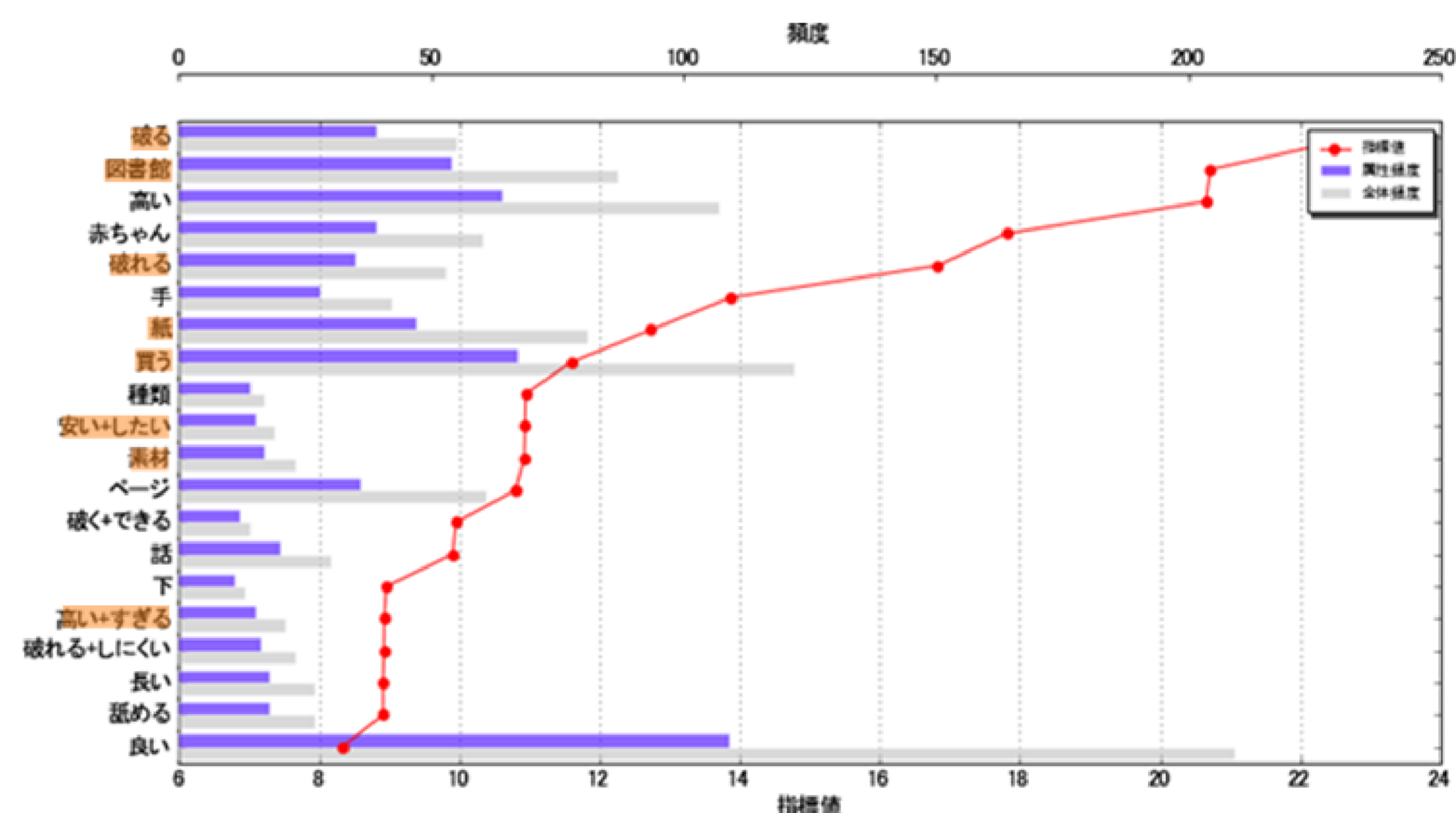


図2.30代の特徴語抽出の結果

- ・「破れる」「素材」など、児童書の**耐久性**に関する語が多い
- ・「安い+したい」「高い+すぎる」など、**価格**に関する不満が多い
- ・「図書館」「買う」など、**購入や利用シーン**に関わる語も見られる

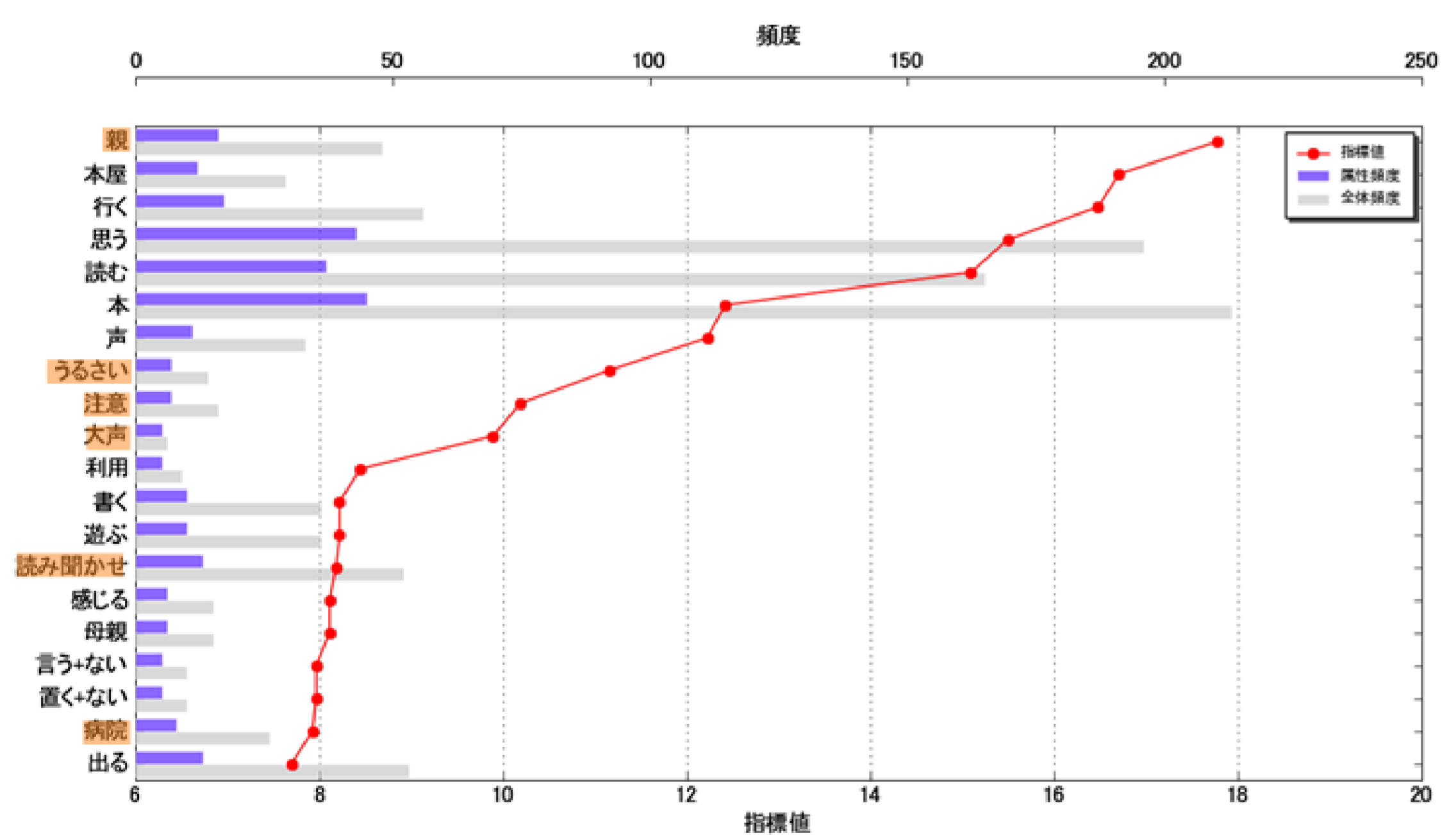


図3.40代の特徴語抽出の結果

- ・「読み聞かせ」「親」などから、**親子間のコミュニケーション**に関する不満が多い
- ・「注意」「大声」「うるさい」などから**マナー**に関する不満が見られる
- ・「病院」での不満が見られる

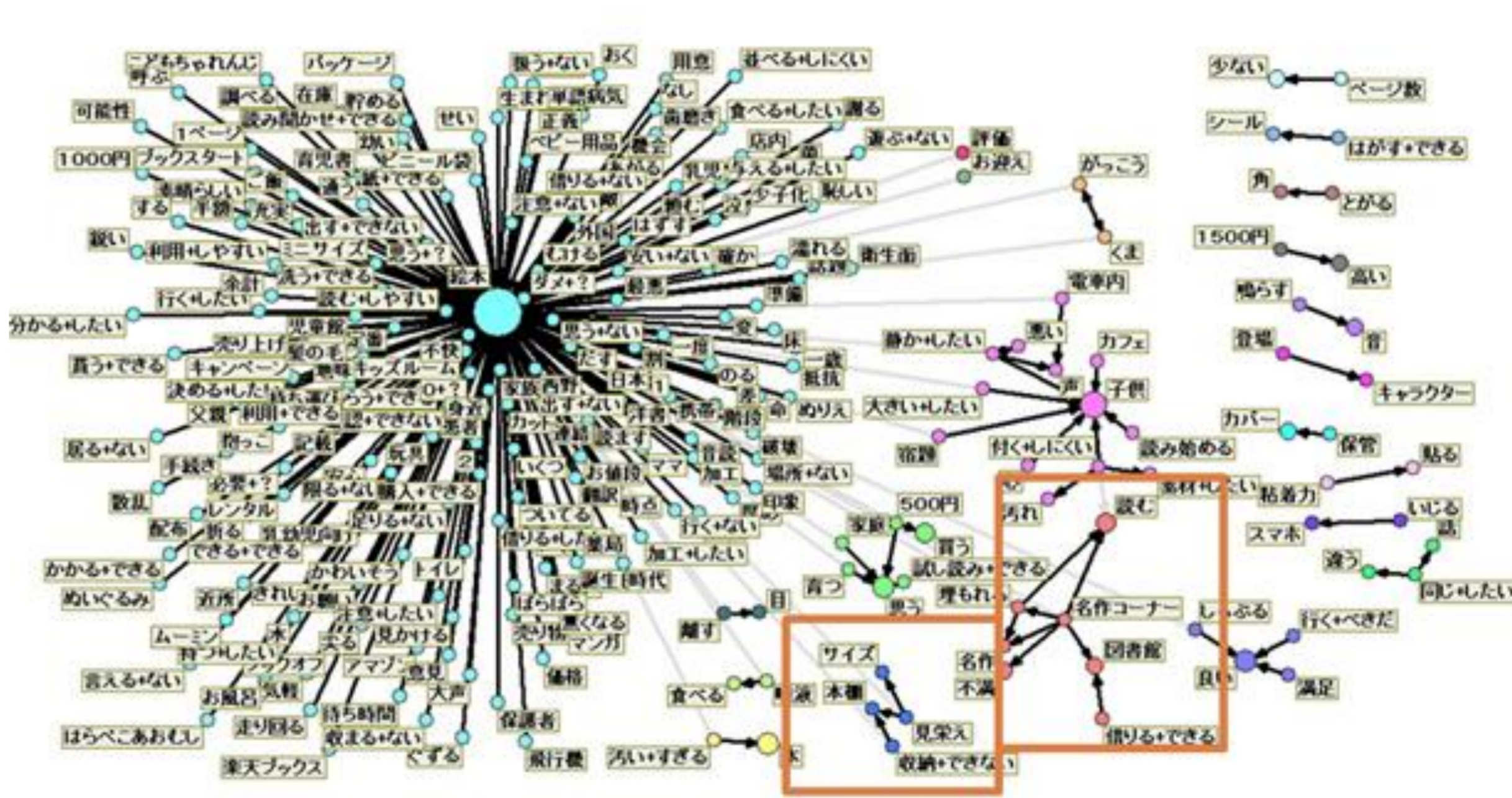


図4.ことばネットワーク分析の結果

- ・「サイズ」「収納+できない」など**児童書の大きさ**に関する不満が見られる
- ・『図書館』や『名作コーナー』といった、**利用場所**に関する不満も確認された

まとめ

- ・「値段が高い」「破れる」といった不満が多い
- **価格と耐久性**の改善を優先的に行うことで、**保護者の負担**や**子育てに伴うストレスの軽減**につながる可能性がある

今後の方針

病院・図書館・子育てに関する不満や出版社ごとの課題を明らかにし、それらを踏まえて児童書制作の改善点を考察する。

謝辞：本研究では、国立情報学研究所のIDRデータセット提供サービスにより株式会社Insight Techから提供を受けた「不満調査データセット」を利用させていただきました。ここに厚く御礼申し上げます。